

【総括】

1 回答者の読書環境について

●1か月の読書冊数

【市民・利用者・小中学生で大きな開き】

市民アンケート(以下「市民」)で「1～2冊」の割合が47.2%と最も高かったのに対し、図書館利用者アンケート(以下「利用者」)では「3～4冊」が最も高く27.8%、次いで「5～6冊」が22.4%、また小中学生アンケート(以下「小中学生」)では、「3～4冊」が28.9%で最も高く、次いで「1～2冊」21.2%となっています。

また、「11冊以上」を比較すると、市民の3.8%に対し、利用者19.1%、小中学生10.7%、反対に「全く読まない」では、市民の15.8%に対し、利用者1.5%、小中学生1.3%と大きな開きがみられます。

【男性より女性の方が冊数が多い】

男女別でみると、市民では、「1～2冊」女性が50.5%、男性が42.8%、「全く読まない」男性が20.4%、女性が12.3%で、ともに大きな差がみられます。利用者では、「3～4冊」男性が33.8%、女性では「5～6冊」が24.2%で最も高く、次いで、「11冊以上」が23.3%となっています。小中学生では、全体に大きな差はみられませんが、「7～10冊」で男性13.7%に対し女性21.7%とやや開きがみられます。全体として、男性より女性の方が、読書冊数が多い傾向にあります。

【市民・小中学生は年齢が上がるにつれ冊数が減少、利用者では変化なし】

年齢別でみると、市民では、「18～19歳」以上で「1～2冊」が一貫して最も高く、「60～69歳」では52.7%に達しています。一方利用者では、「20～29歳」以上で「3～4冊」がほぼ一貫して高く、「80歳以上」では60.0%に達しています。小中学生では、「1～2冊」が小学生10.4%に対し中学生38.2%、「7～10冊」で小学生22.9%に対し中学生9.7%と大きな開きがみられ、全体として小学生の方が中学生より読書冊数が多い傾向にあります。

●本・雑誌等の入手方法

【市民・小中学生は書店かコンビニで購入、利用者は公共図書館で借りる】

市民では「書店・コンビニで買う」割合が66.9%、小中学生では「書店・コンビニで買う」が50.5%、利用者では「公共図書館で借りる」が50.0%で、それぞれ最も高くなっています。一方、「公共図書館で借りる」と「学校図書館で借りる」を合わせると、借りる割合は、市民では12.5%、利用者では52.3%、小中学生では37.7%と大きな開きがみられます。

●知りたい情報の入手方法

【インターネットで調べるが大半】

「インターネットで調べる」が、市民で61.1%、利用者で65.3%、小中学生で71.5%と、それぞれ最も高くなっています。これに対し、「公共図書館で借りる」と「学校図書館で借りる」を合わせた割合は、市民6.3%、利用者18.4%、小中学生13.2%で、「インターネットで調べる」とは大きな開きがみられます。

2 図書館利用について

●図書館の利用度

【市民・利用者・小中学生で大きな開き】

市民では「利用しない」の割合が50.0%、利用者では「2～3週に1回」が44.6%、小中学生では「時々（年に数回程度）」が47.2%で、それぞれ最も高くなっています。「週に1～2回」の割合を比較すると、市民では3.7%、利用者では32.9%、小中学生では6.9%と、大きな開きがみられます。

【男性より女性の方が来館頻度は高い】

男女別でみると、市民では、「利用しない」が男性の55.4%に対し女性が43.0%と、大きな開きがみられます。利用者では、「2～3週に1回」が男性41.5%に対し、女性47.5%と、小中学生では同じく男性7.5%に対し女性14.9%と、ともに大きな開きがみられます。全体として、男性より女性の来館頻度が高くなっています。

【年齢が上がるにつれ来館頻度は下がる。利用者ではその傾向が緩やか】

年齢別では、市民では「利用しない」割合は年齢とともに高くなり、「80歳以上」では75.6%に達しています。利用者では、ややその傾向はありますが、「80歳以上」でも「利用しない」割合は10.0%、これに対し「毎日（ほぼ毎日）」も10.0%と、年齢に伴う来館頻度の低下は顕著ではありません。小中学生では、「利用しない」割合が小学生の16.3%に対し中学生28.0%と大きな差がみられます。全体に、学年が上がるにつれて図書館へ足を運ばなくなるという傾向がみられます。

●図書館利用の目的

【趣味・娯楽と知識・教養】

市民では「趣味・娯楽など、生活の質を向上させる」の割合が47.0%で最も高く、次いで「知識や教養の向上」が25.6%、利用者では「知識や教養の向上」が37.8%で最も高く、次いで「趣味・娯楽などの向上」が33.7%となっています。一方、「仕事や研究」では、市民8.7%、利用者7.7%、「学校の勉強」では、市民4.5%、利用者3.6%と、必要に応じて来館するなどの割合では大きな開きはみられません。

【市民は趣味・娯楽、利用者は知識や教養】

男女別でみると、市民では男女とも「趣味・娯楽など、生活の質を向上させる」が半数近くを占めています。これに対し利用者では、「知識や教養の向上」の割合が増え、とくに男性では43.1%で最も高くなっています。

【年齢とともに、市民では趣味・娯楽が増加、利用者では知識・教養が増加】

年齢別でみると、市民では年齢が上がるにつれて「趣味・娯楽など、生活の質を向上させる」の割合が増加し、「80歳以上」では60.0%に達しています。これに対し、利用者では「知識や教養の向上」の割合が増加し、「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」では40%を超えています。

●最も利用する図書館

【中央図書館利用が最も多い。次いで豊科図書館】

市民では「中央図書館」が50.5%で最も高く、次いで「豊科図書館」が28.0%、利用者では「中央図書館」が48.7%、次いで「豊科図書館」が20.4%、小中学生では「中央図書館」が51.5%、次いで「豊科図書館」が28.0%と、市民・利用者・小中学生で類似の傾向を示しています。一方、「堀金図書館」と「明科図書館」について、市民・利用者をみると、「堀金図書館」では市民4.0%に対し利用者11.2%、「明科図書館」では市民5.7%に対し利用者11.0%と、大きな開きが見られます。利用者というより読書する層が、より多く地元の図書館を利用しているといえそうです。

●図書館へ行く交通手段

【いずれも自家用車が大半】

「自家用車」あるいは「家の車」がいずれも最も高く、市民78.7%、利用者73.7%、小中学生57.9%となっています。次いで「自転車」が、市民9.4%、利用者11.5%、小中学生30.9%となっています。「公共交通機関」あるいは「電車・バス・タクシー」は、市民1.2%、利用者0.3%、小中学生0.5%と少数で、全体としていずれも同様の傾向をみせています。

●よく利用する曜日

【市民・利用者は土曜日、小中学生は日曜日】

市民では、「土曜日」の割合が30.8%で最も高く、次いで「日曜日」20.6%、「火曜日」12.9%、利用者では、「土曜日」が26.8%で最も高く、次いで「火曜日」18.6%、「日曜日」14.3%となっています。小中学生では、「日曜日」が56.0%で、とびぬけて高くなっています。

●よく利用する時間帯

【市民・利用者・小中学生でパターンが異なる】

市民では、「特に決まっていない」の割合が42.5%で最も高く、次いで「午後」29.3%、「午前」21.8%であるのに対し、利用者では、「午前」が35.5%で最も高く、次いで「午後」28.1%、「特に決まっていない」27.8%、また、小中学生では、「特に決まっていない」54.4%、「午後」32.5%、「午前」10.1%と、それぞれまったく異なるパターンを示しています。

●図書館での滞在時間

【市民・利用者・小中学生とも1時間以内が多い】

いずれも「1時間以内」の割合が最も高く、市民49.1%、利用者44.9%、小中学生42.9%、市民と利用者についてみると、次いで「30分以内」が市民23.9%、利用者25.8%、「1～3時間」が市民23.2%、利用者20.4%と、市民と利用者ではほぼ同様の傾向を示しています。小中学生では、「1～3時間」30.1%、「30分未満」22.4%と、全体に滞在時間が長めになっています。

●公共図書館サービスの利用状況

【本や雑誌・視聴覚資料を借りるための利用が多い】

「いつも利用する」と「比較的利用する」を合わせてみると、市民では、「ア 図書館にある本や雑誌・視聴覚資料などを借りる」が37.8%で最も高く、次いで「オ 図書館の本を館内で読む」22.8%、「カ 図書館の新聞・雑誌を館内で読む」20.5%など、利用者では、「ア 図書館にある本や雑誌・視聴覚資料などを借りる」が74.7%で最も高く、次いで「オ 図書館の本を館内で読む」31.1%、「カ 図書館の新聞・雑誌を館内で読む」21.9 %などとなっています。市民と利用者で上位の順位は同一ですが、利用者では「ア 図書館にある本や雑誌・視聴覚資料などを借りる」割合がとびぬけて高くなっています。

【視聴覚(AV)コーナーと持込みパソコン席の利用は少ない】

一方、「利用しない」についてみると、市民では、「セ 視聴覚(AV)コーナーを利用する」が75.4%で最も高く、次いで「ス 図書館の持込みパソコン席を利用する」73.2%、「サ 図書館のパソコンでインターネットを利用する」70.9%など。利用者では、「ス 図書館の持込みパソコン席を利用する」が74.0%で最も高く、次いで「セ 視聴覚(AV)コーナーを利用する」73.5%、「サ 図書館のパソコンでインターネットを利用する」66.1%など、順位・割合とも、市民・利用者でほぼ同じ傾向を示しています。

●公共図書館の施設・資料についての満足度

【大人向け図書と施設設備に対する満足度が高い】

「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合をみると、市民では、「キ 図書館の施設・設備」が57.3 %で最も高く、次いで「ア 大人向けの図書」42.9%、「イ 子ども向けの図書」33.6%など。利用者では、「ア 大人向けの図書」が66.6%で最も高く、次いで「キ 図書館の施設・設備」が65.3%、「イ 子ども向けの図書」が46.5%などとなっています。上位三者は、市民・利用者とも同じですが、利用者で「ア 大人向けの図書」の満足度が高くなっているのが特徴的です。

【視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)に対する不満度がやや高い】

反対に「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合をみると、市民では、「カ 視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)」が17.6%で最も高く、次いで「ア 大人向けの図書」15.1%、「ウ 雑誌」12.7%など。利用者では、「カ 視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)」が26.0%で最も高く、次いで「ア 大人向けの図書」が10.9%、「ウ 雑誌」が10.5%などとなっています。市民・利用者とも順位・割合がほぼ同一ですが、利用者の「カ 視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)」への不満度がやや高いのが特徴的です。

●図書館サービスについての満足度

【職員の接遇に対する満足度が非常に高い】

「非常に満足」と「やや満足」を合わせた割合をみると、市民では「ナ 職員の接遇」が57.1%で最も高く、次いで「ケ 自動貸出機の使いやすさ」が51.8%、「エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV資料3点以下、紙芝居2点以下)」が51.0%など。利用者では、「ナ 職員の接遇」が最も高く73.8%で、次いで「オ 資料貸出期間(2週間以内)」63.0%、「ア 開館時間」59.2%、「エ 資料貸出点数(図書10点以下、AV資料3点以下、紙芝居2点以下)」55.6%などとなっています。いずれも、「職員の接遇」についての満足度が最も高く、とくに利用者ではとびぬけて高くなっています。

【開館時間や休館日には不満もある】

反対に「やや不満」と「非常に不満」を合わせた割合をみると、市民では「テ 閲覧用のいす・机の数」が15.9%、次いで「ア 開館時間」が14.6%、「キ 本の探しやすさ(本の配置の仕方)」14.4%、「イ 休館日(月曜日)」14.0%など。利用者では、「ア 開館時間」が17.4%で最も高く、次いで「イ 休館日(月曜日)」17.3%、「ウ 祝日の翌日及び館内整理日(月1回)を休館としていること」16.6%などとなっています。いずれも、施設設備や制度に対する不満となっています。

●特に充実すべき図書資料

【新しい本や雑誌の充実への要望が非常に高い】

「新しい本や雑誌」の割合がいずれもとびぬけて高く、市民では46.0%、利用者では65.3%、小中学生では72.5%となっています。次いで高いのが「趣味・実用書」で、市民では34.7%、利用者では35.2%、小中学生では38.7%となっています。これらに続くのが、市民では「専門書」31.7%、利用者では「CD・DVD」26.0%、小中学生では「品切れや売られていない本、貴重な昔の本など」25.6%などです。

【新しい本や雑誌への要望は女性が男性を上回る】

男女別でみると、市民・利用者・小中学生ともに「新しい本や雑誌」の割合が高くなっていますが、ともに女性が男性を上回っています。「趣味・実用書」では、いずれも男女に大きな差はみられません。

【市民の若年～中年層で新しい本や雑誌への要望がとくに高い】

年齢別でみると、「新しい本や雑誌」への要望がとくに高いのは、市民の「16～17歳」から「50～59歳」までの年代、また、小学生より中学生、利用者では「40～49歳」と「50～59歳」です。

●今後、特に充実すべき図書館サービス

【図書資料の充実への要望が非常に高い】

「図書資料の充実」の割合が最も高く、市民では31.1%、利用者では50.0%、小中学生では44.9%(選択肢は「本や、DVDなどを増やす」となっています。次いで、市民では「図書設備の使いやすさ」が22.2%、「高齢者向けのサービス」が21.9%、利用者では「開館日・開館時間の拡大」が25.8%、「図書設備の使いやすさ」が20.9%、小中学生では「中高生向けに、いろいろな分野の入門書や人気の小説などの本をそろえる」44.4%(市民・利用者対象の設問にはない選択肢)、「図書館の貸し出しする機械や本を探す機械などを使いやすくする」25.2%などとなっています。

【とくに利用者・男性が図書資料の充実を望む】

男女別でみると、「図書資料の充実」の割合は、利用者・男性が最も高く56.9%、次いで利用者・女性48.9%となり、市民を大きく上回っています。また、「図書館設備の使いやすさ」は市民・女性、利用者・女性で高くなっています。

【市民の若年～中年層、利用者の中年層がとくに図書資料の充実を望む】

年齢別でみると、「図書資料の充実」の割合は、市民の「18～19歳」から「50～59歳」まで、また、利用者の「30～39歳」「40～49歳」「50～59歳」でとくに高くなっています。

●図書館の利用スペースへの要望

【市民・利用者はくつろいで閲覧できるスペース、小中学生は飲食できる場所や設備】

市民・利用者では、「くつろいで閲覧できるスペース」の割合が最も高く、市民で50.1%、利用者で56.1%、次いで「集中して調べものができる場所」が市民では32.6%、利用者では32.4%となっています。以下、市民では「飲食できる場所や飲食を提供する設備」19.9%、「書架や設備などのわかりやすい館内表示」17.4%、利用者では「書架や設備などのわかりやすい館内表示」28.3%、「子どもに読み聞かせのできる場所」18.4%などとなっています。小中学生では、やや傾向が異なり、「飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設」が41.7%で最も高く、次いで「ゆっくりで本や雑誌が読める場所」35.4%、「友達と一緒に利用できる場所」35.0%などとなっています。

【くつろいで閲覧できるスペースへの要望は、利用者・男性が最も高い】

男女別でみると、「くつろいで閲覧できるスペース」の割合がとくに高いのは、利用者・男性の63.8%、次いで、市民・女性の54.0%となっています。「集中して調べものができる場所」は、男女別、市民・利用者で大きな差はみられません。小中学生では、「飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設」が男性45.6%、女性37.9%でともに最も高くなっていますが、男女でやや差がみられます。

【くつろいで閲覧できるスペースへの要望は、市民の若年～中年層、利用者の中年層でとくに高い】

年齢別でみると、「くつろいで閲覧できるスペース」の割合は、市民の「18～19歳」から「50～59歳」まで、利用者では「20～29歳」「30～39歳」「40～49歳」でとくに高くなっています。小中学生の「飲食できる場所や飲食物を出してくれる施設」への要望は、小学生・中学生で差はみられません。